平成24年度行政視察報告書

1. 視察期間

平成24年10月30日（火）～31日（水）

2. 視察先、視察項目

①宮城県南三陸町 がれき処理について

②秋田県仙北市 歴史的町並み保存について、温泉を活用した観光施策について

3. 視察の目的

①東日本大震災により発生した南三陸町のがれきの処理を自分の町で処理する事が決定されたことを受け、そこに至るまでの課題について調査研究し、高山市の防災対策にその教訓を活かすため。

②歴史的町並みについて、高山市と類似した点や相違点を調査研究し、高山市の観光振興施策を活かすため。

4. 視察内容

ア. 概要、効果

①復旧・復興プロセスは、大きく4段階に分けられ、①緊急時②復旧時③復興前期④復興後期である。今、南三陸町は第二段階の復旧時にある。ソーシャルネットワークを再起動させる段階で、具体的には、がれき撤去とリサイクルも含めた処分、命綱となるインフラの復活である。また未だ処理されていない瓦礫の多さに唖然としたが、町は瓦礫の処理を全て町内で処分する方針を出した。

②「武家町」としての景観を維持し、生活者・来訪者ともにより良い環境をつくり後世に引き継ぐため第一歩として、「仙北市角館伝統的建造物群保存地区路上喫煙の禁止等に関する条例」を策定。地区内の景観を阻害する広告物の撤去など外から見た「武家町らしさ」に比重が置かれ、地域住民の意識醸成につながると期待されている。

伝建選定依頼、「生きたまま」の保存（生活して守りながらの保存）を第一に考えてきたが、ここに来て地区の高齢化や、観光化に伴い、武家屋敷の外観を維持しながら住み保存するという意識に変化が起きている。「商家群」と違い「武家町」という現在成り立たない生業の町並みを維持する難しさがある。

イ. 課題

①高山市の大災害に対する日常からの準備、訓練、危機管理の構築も急がれ、そのことが喫緊且つ最重要な課題である。復旧・復興の一連の動きにより、経済、社会、環境を復活させ、日常化へ移行することが需

要となる。非日常から日常への移行において、災害直後と異なる乗り越えるべき課題が存在することも同時に認識する必要がある。

- ②仙北市は観光の課題として次のような点を課題としており、高山市にも共通している課題もある。冬季観光客が少ない、観光地間のアクセスが不十分、市内の観光地から観光地への三次アクセスがまだ十分といえない、情報発信の不足、受入態勢が不十分、日帰り・通過型の傾向、国際観光の推進の6点である。

5. 考察

- ①ささえる「つながり」が必要、単に人命に関わるだけでなく、復興段階を根底で支えるソーシャルネットワーク（社会的つながり）の分断状態の克服が重要。東日本大震災は、局地的な災害とは異なり、広域にわたることから、これまでのソーシャルネットワークを根本的に変えた。被災した住民のダメージをより長期化、深刻化させるだけでなく、そのネットワークリスクを日本全体に波及させている。これをまず食い止めるためには、生命線のインフラ復旧を国中心で行い、地域経済社会を支えるソーシャルネットワークへの信頼性の回復が大前提となるのではないかと感じた。また医療の面では、重症度などに応じて治療の優先順位をつける「トリアージ」が必要になる。市民が正しい知識を身につけ、普段の地域医療が安定していないと、災害対応は難しくなる。また、医師を増やして地域医療の安定を図ることも重要である。

さらに、高山市の災害対策の中で、初動体制の整備の必要性（要援護者台帳の整備等）、議会版 BCP（業務継続計画）の必要性、これらの重要性について再認識した。

- ②地域が観光に取り組む意義とは、主に、観光収入による経済波及効果、来訪者と地域住民の交流を通じた地域への刺激、地域を観光的視点から構築し直すことで、地域の特性を発展させたり、課題を克服し、観光地としてのみならず、住環境としての地域を維持・改善しようとするところにある。したがって、新しい観光の取り組みにあっては、過去開発されてきた観光地とは異なり、地域の維持・改善、すなわち「地域づくり・まちづくり」の視点が重要ということになる。新しい観光に取り組む地域づくりとは、経済効果のみならず、来訪者との交流や地域認識の再構築といった効果も念頭において行われるべきものであり、しかも参画する主体は従来の観光産業等に限定されることなく、地域住民や NPO 等の団体まで広がっている。観光を地域づくりに取り込んだ「観光まちづくり」がこれからは必要だと感じた。